

第1章 今まで道路の整備が目指したもの

3. 道路整備の効果は数字だけじゃない

道路整備により自動車等の道路利用が拡大

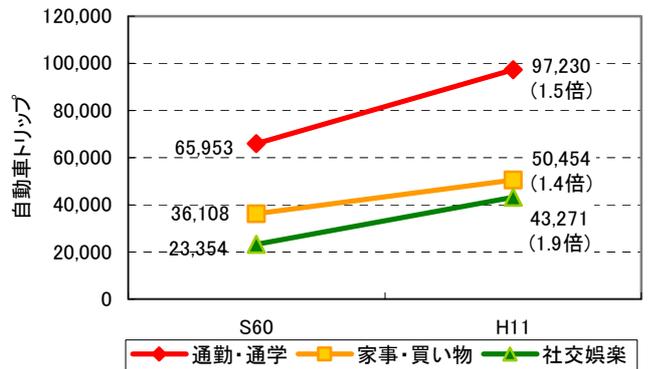
20世紀後半、車社会の到来によって、私たちの生活スタイルは大きく変わりました。自動車の普及による生活スタイルの変化は、愛媛県においても全国と同様に起こり、現在では自動車を利用すること自体が生活の一部になっている方も多いのではないのでしょうか。

私たちの日々の行動には、通勤・通学、買い物、余暇活動など、移動を伴うものが多くあり、今日では自動車がその代表的な移動手段となっています。

こうした自動車利用の増加は、統計資料にも表れており、昭和60年から平成11年における松山市を発着する目的別の自動車トリップ数の変化を見てみると、日常における主な活動で自動車の利用が増えていることがわかります。また、下の棒グラフは松山市民の通勤・通学時における交通手段を平成2年と平成11年で比較したもので、これによると、バスや鉄道といった公共交通機関を利用する人が減少してい

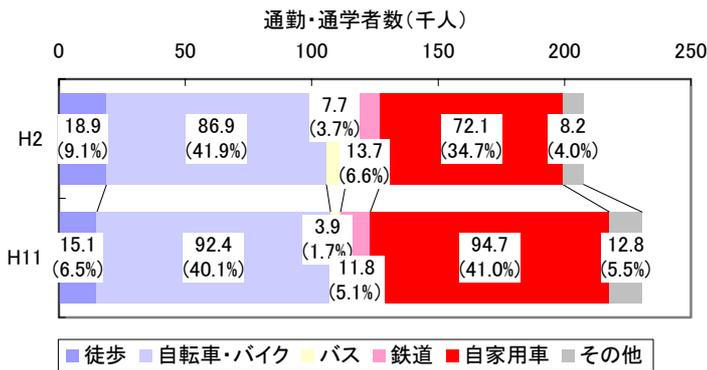
るのに対し、自家用車を利用する人が大幅に増加していることがわかります。このように急激に自家用車を利用する人が増加した理由としては、乗用車保有台数や運転免許保有者の増加などの理由のほか、利用者の増加にあわせて道路整備が行われ、自動車を利用しやすい環境が整ってきたことも大きな理由の一つであると考えられます。

●松山市を発着する目的別の自動車トリップ数の変化



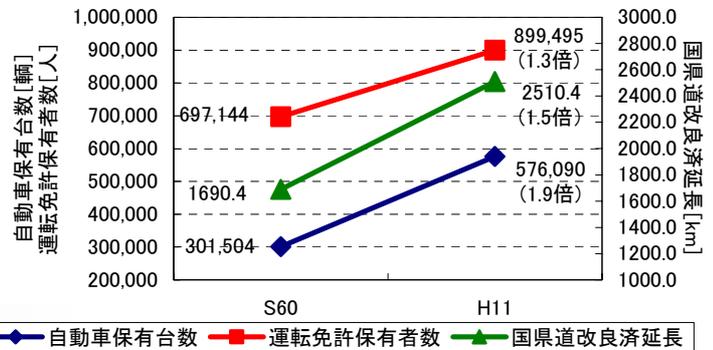
資料：「道路交通センサ自動車起終点調査」建設省道路局より作成

●松山市民の通勤・通学における交通手段の変化



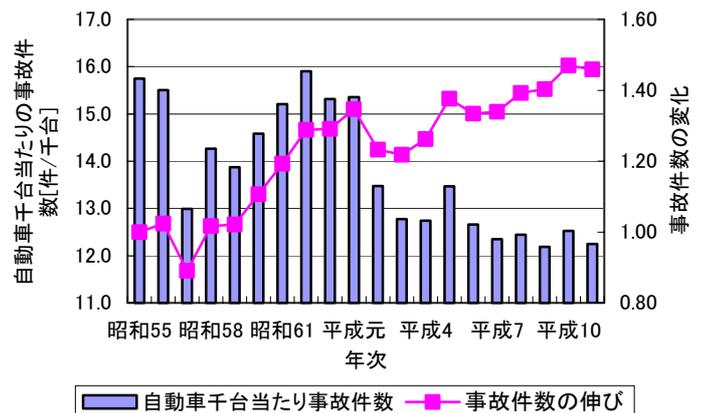
資料：「国勢調査」総務省より作成

●自動車交通増加の背景



資料：「自動車保有車両数月報」運輸省、「運転免許統計」愛媛県警察本部、「都道府県別免許保有者数(月報)」警察庁、「愛媛の道路 2002(資料編)」愛媛県より作成

●愛媛県における交通事故件数の推移



資料：「香川の交通」香川県警察本部より作成

道路整備による安全性の向上

右のグラフは、昭和55年から平成12年までの愛媛県における道路交通事故件数の変化と自動車千台あたりの道路交通事故件数を示したものです。

事故件数は、自動車の飛躍的な普及、交通量の増大に伴って、全国的に増加傾向にあります。こうした傾向は愛媛県においても同様で、昭和55年時における事故件数を1とした場合、平成12年には約1.5倍にまで増加しています。しかし、保有台数(千台)あたりの事故件数で見ると、昭和60年前後から一時上昇傾向がみられるものの、平成元年あたりからは一転して減少傾向を示しています。これには様々な原因が考えられますが、道路改良を進めてきたことで、より安全で運転のしやすい規格に改良された道路が増えたことも要因の一つだと考えられます。

しかし、道路利用者数の増加、移動距離の増加に伴って発生している交通事故件数は年々増えており、引続き道路整備の面からも積極的な交通安全対策が求められています。

観光の振興に寄与する道路

近年、観光面においても道路整備の効果がはっきりとした形で現れてきています。愛媛県における観光客数は、年々増加傾向にあります。特に瀬戸大橋が開通した昭和63年、しまなみ海道が開通した平成11年には、県外からの観光客が大幅に増加しました。瀬戸大橋、しまなみ海道の開通後は、それぞれ県外からの観光客数に多少の減少が見られますが、いずれも開通前の水準を上回っており、道路整備による愛媛県へのアクセス性の向上がもたらした効果であると考えられます。

また、愛媛県を訪れる県外からの観光客の利用交通機関別の内訳を見てみると、平成13年で、定路線交通機関を利用する県内外の観光客数は約430万人(全体の約18%)、貸切バス及び自家用車といった道路利用者数は約1,900万人(貸切バスが約23%、自家用車が約58%、合計で約81%)となっています。特に自動車利用者数(貸切バスと自家用車の利用者数の合計)は、S58年当時からおよそ2倍ほどに増加し、観光客の自動車及び道路利用に対するニーズの拡大に道路整備が徐々に追いついてきていることがわかります。

四国に活動範囲の拡大をもたらしている高速道路

高速道路の整備が遅れていると言われ続けてきた四国ですが、ようやく4県都が高速道路で結ばれました。高速道路の整備が進んだことで、四国各県庁の2時間圏が拡大し、4県都間の所要時間も大幅に短縮されました。また、この所要時間の短縮によって愛媛県と四国各県間の自動車旅客輸送量も大幅に伸びました(右下のグラフ参照)。中でも、愛媛県から最も遠い徳島県間の相互旅客輸送量は大幅な時間の短縮により、平成12年時点で昭和54年時の約11倍に伸び、また、愛媛県-高知県間では短縮された時間は他県との間ほど多くはなかったものの、山間部を抜ければならなかったこれまでと比較して、走行時の快適性が飛躍的に向上したことを受けて6倍を超える輸送量の伸びを見せました。

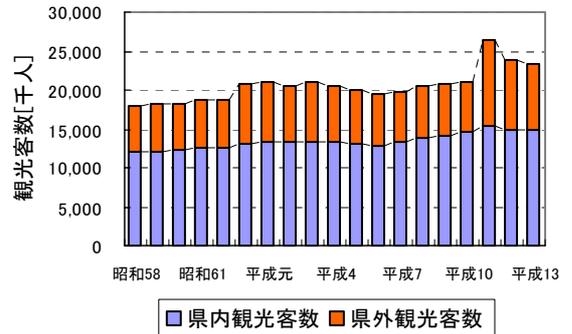
四国では、全国に遅れる形で道路整備がなされてきました

●高速道路整備による四国各県庁の2時間圏の拡大



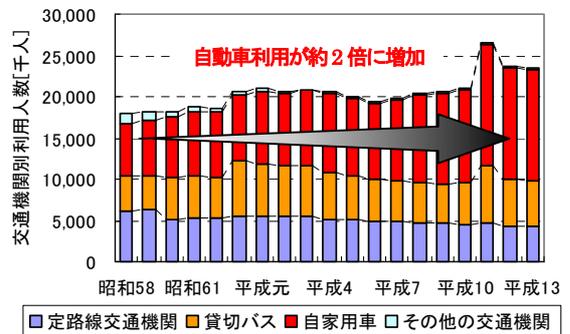
資料:「エクスハイウェイこれからの四国のために」
(社)土木学会四国支部、日本道路公団四国支社より作成

●観光客数の推移



資料:「観光客数とその消費額」(社)愛媛県観光協会より作成

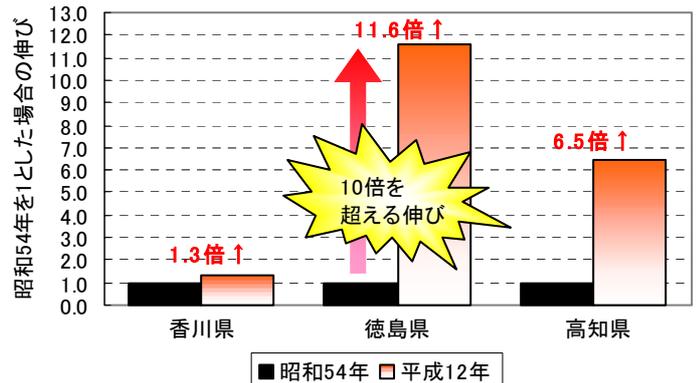
●交通機関別利用人数の推移



資料:「観光客数とその消費額」(社)愛媛県観光協会より作成

たが、高速道路の整備による時間短縮、走行快適性の向上は、日々の活動における時間的・空間的な制約を緩和し、四国内での移動を活発にさせ、活動の範囲を広げるなど、さまざまな部分で効果を発揮しています。

●愛媛県と四国各県間の自動車旅客輸送人員の伸び



資料:「貨物地域流動調査 旅客地域流動調査」運輸省運輸政策局情報管理部編より作成

